

## 自分のペースで働ける居場所をつくる

スパイスカレーミルズ 経営者

久木田 郁哉 さん



働きづらさを抱える人の居場所をつくりたい

「働きづらさを抱えた人たちも自分のペースで社会とつながる、居場所ができる、そんな取り組みができればと思っています」

そう話すのは、市内でスパイスカレーミルズなど複数の飲食店を経営する久木田郁哉さん。「職業体験実習」の受け入れ事業者として自身が経営する店舗で、職業体験者を受け入れています。

「都会は良い意味でも悪い意味でも忙しいです。寂しそうな人がいても、互いに声を掛ける余裕がないことも多いと思います。でも、川西に戻ってきたら時間がゆっくり使えて、余裕がある。それなら都会の忙しいリズムが合わないとか、働きづらさを抱えた人が、できる範囲で社会と関われるような場所をつくりたいと思っただけです」

職業体験者を受け入れる工夫とメリット

職業体験者の中には急に休む人もいて、他のスタッフからは不満の声が出ることも。

### 職業体験実習とは

さまざまな理由で、就労ができない生活保護受給者や生活困窮者に、就労のためのサポートを行う川西市就労準備支援事業。

職業体験実習は同事業で実施する支援策の一つで、働きたいけれど人間関係が苦手、能力に自信がない、社会経験が少なく不安といった人が、自信を取り戻せるよう受け入れ事業者の元で職業体験を行う制度です。

### 受け入れ事業者を募集

職場体験希望者の受け入れが可能な事業者があれば、登録をお願いします。詳しくは市ホームページへ。



それぞれにあった居場所が増えていけば

久木田さんはさまざまな事業者に受け入れ事業者になってほしいと話します。

「始めはその人が来なくても仕事が回るようにスケジュールを管理します。全く休まない人もいるし、そこは体験中にある程度見極められると思いますね。接客が難しいのなら、裏でできる仕事にしたり、その人の特徴を見て振り分けたりしています」

工夫は必要だが、良い点もあると久木田さん。

「受け入れを始めてから約2年がたちますが、何人かは職業体験を卒業して、通常の雇用契約で働いています。週1・2回の人が多いですが、地元の人だと長く働いてくれる傾向がありますし、人材確保にもつながっています」

「それぞれの店舗で職業体験者を受け入れています。でも、飲食業に向かなくても、他の業種なら続くかもしれない。もっと体験先の選択肢が増えて、働きづらさを抱えた人それぞれにあった居場所がいくつもできたらいいですね。これからも事業所に限らず、働きづらい人でも社会とつながれる活動や場所を提供していきたいです」



## 学校給食は生きた教材

学校給食で食育推進  
食の知識を身に付けるきっかけに

市の学校給食は、小・特別支援学校は校内に調理場を持つ単独校方式、中学校は全校分を1カ所で作る共同調理場方式(センター方式)で実施しています。

献立は小・特別支援学校と中学校のそれぞれで統一。市では和食を中心とした米飯給食を推進する献立を栄養教諭が考えています。

給食の時間は児童生徒にとって楽しい時間であり、学習指導要領で学級活動に位置付けられた、学びの時間でもあります。その教材となる献立は、学校給食の目標や食育の観点を踏まえて、食の知識や将来の健康につながる食習慣を身に付けられるように、できる限り身近で採れた旬の食材を使っています。

また、教科学習と関連付けた献立を取り入れることにも力を入れています。郷土料理は、料理のいわれや食べ継がれた理由に、その土地の歴史や地理、気候が深く関係することがあります。教科での学びが、給食として目の前に現れることで「生きた教材」となり、多方面の学びにつながるよう考えています。

さらに、献立が児童生徒にとってよりよい教材となるよう、小・特別支援学校では「ちょっとひとこと」、中学校では「ちょっとと食育ガイド」で食に関する知識を発信するなど、各学校で食育をすすめています。

## 生きる

Vol.2

### 心の持ち方

「分からないことを分からないまま耐える」という選択肢

前回に続いて、もう一つ「心の持ち方」を紹介します。「ネガティブ・ケイパビリティ」という言葉をご存じでしょうか? 英国の詩人キーツの言葉です。私は、「容易に答えの出ない事態に白黒つけず、グレーのまま耐えうる能力」と解釈しています。

娘が不登校だった時期、私はあらゆる方法を使って登校を促しました。今考えると「娘のため」というよりは、「親である自分が安心したいから」だったのだと思います。まさに私は「学校へ行かない娘」という明快な答えの出ない状態に耐えられず、「そのままの娘の姿を受け入れる」という「グレーのまま耐えうる能力」に欠けていたのです。私が根負けして娘の不登校を受け入れてから、親子の関係性は以前よりも良くなり、物事を曖昧なままにしておけるようにもなりました。

人生は、思い通りにならないことだらけですよ。そんな時に「努力で理想に近づけようと頑張る」か「きっぱり諦めて手放す」のどちらかを選びがちですが、「分からないことを分からないまま耐える」という選択が必要な時もあります。人間の脳には「分かる」とする性質があるため、放っておくと白黒付けたがりますが、グレーで踏ん張ることも時には大切です。タイムパフォーマンスが重要と言われる現代ですが、「すぐに答えを出さなくてもいい」「時間がかかることもある」と言い聞かせながら、時にはじっくり問題と向き合ってみてください。

(会話の泉事務局長 コミュニケーション・サポーター 横山由紀子)

## 消費生活センターだより

### ひつぎの中のドライアイスで二酸化炭素中毒

ひつぎの中に顔を入れない、一人にならない

日本では一部例外を除き、人が亡くなってから24時間経過した後でなければ埋葬や火葬を行ってはいけないことになっています。通常、人が病院で亡くなると病院では遺体を数時間しか安置できないので、葬儀までの間は自宅や斎場などに安置します。その時、遺体の保全のため葬儀業者がドライアイスなどで冷却・保冷を行います。亡くなってから火葬までの間は、遺体の近くに常にドライアイスが置かれ、ひつぎの中は二酸化炭素が充満していることになるのです。

**事例1** ドライアスを敷き詰めたひつぎの小窓を開けたそばで、意識不明の状態であっていた。葬儀場から病院へ搬送されたが、搬送先の病院で死亡した。

**事例2** 自宅で、ドライアスを敷き詰めたひつぎの中に顔を入れた状態で発見された。搬送先の病院で死亡が確認された。

経緯は分かりませんが、通夜終了後に遺族が寝ずの番をしている時間帯に発生したとされています。周囲に人がいない中で、故人にゆっくり別れを告げようと、ひつぎの中の故人に話しかけている時に事故が起きていると推測されます。葬儀は非日常的な場面です。ひつぎの中でドライアイスが気化して二酸化炭素が充満している、という危険性にまで気が回りません。葬儀の際は、ひつぎの中に顔を入れない、室内の換気を十分に行う、線香などで一人にならない、気分が悪くなったらすぐにひつぎから離れるなど気を付けましょう。